

令和5年度 第4回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和6年1月25日（木）午後6時30分～

午後8時30分

会場：墨田区役所13階 131会議室

次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 答申（案）について
 - (2) 令和6年度の区の主な取組について
 - (3) 八広児童館の愛称名について
- 3 事務連絡
 - (1) 次回開催予定
- 4 閉会

配布資料

- | | |
|-----|------------------|
| 資料1 | 墨田区子ども・子育て会議委員名簿 |
| 資料2 | 答申書（素案） |
| 資料3 | 令和6年度の区の主な取組について |
| 資料4 | 八広児童館の愛称名について |

出席者（敬称略）

○委員

西村 孝幸（小梅保育園長）
西島 由美（にしじま小児科院長）
野原 健治（社会福祉法人興望館理事長）
浅見 佳子（相模女子大学准教授）
古屋 真（駒沢女子短期大学准教授）
八重田 裕一郎（墨田児童会館館長）
東 百代（本所白百合幼稚園長）
土屋 恵子（主任児童委員）
末田 豪（立花吾孀の森小学校PTA会長）
尾口 優子（青少年委員協議会委員）
山口 仁美（両中地区青少年育成委員会委員長）
徳原 広美（株式会社コーリン堀川取締役保育事業担当）
賀川 祐二（NPO法人病児保育を作る会代表理事）
高田 宏美（キャリア保育園東向島施設長）
真鍋 文朗（区民公募委員）
眞能 貴代（区民公募委員）
三井田 香奈（区民公募委員）
本谷 友実（区民公募委員）
横山 竜也（区民公募委員）
河原 宏子（緑幼稚園長）
藤村 雅彦（柳島小学校長）
国分 幸美（太平保育園長）

<欠席委員>

星野 操（文花子育てひろば施設長）
平林 秀敏（墨田中学校PTA会長）
佐藤 順一（吾孀立花中学校長）

<傍聴者>

なし

○事務局出席者

酒井 敏春（子ども・子育て支援部長）、宮本 知幸（教育委員会事務局次長）、石岡 克己（子育て支援課長）、秋山 和栄（子育て政策課長）、細谷 勇治（子ども施設課長）、坂田 勝彦（子育て支援総合センター館長）、梅原 和恵（副参事（子ども・家庭支援連携担当））、石坂 泰（指導室長）、大八木 努（地域教育支援課長）

議事概要

1 開会

2 議題

(1) 答申（案）について

西村会長 八重田部会長	(資料について基づいて説明)
西島副会長	・ P2 子どもの意見聴取の取組について、「子どもの真の意見をつぶさに聴取するためには、」の文言は重複しているので不要なのではないか。 ・ P3 療育の支援充実について、療育は窓口が障害者福祉課だが、新保健施設等複合施設ができることもあり、ワンストップですべてが済むようにすることを答申に盛り込めないか。 ・ P3 多子世帯への支援充実について、「多子世帯」ではなく、「孤立世帯」ではないか。両親が体調を崩し、子どもも病気になったが病院へ連れて行けない、近くに祖父母もおらず頼れる人がいないという世帯が多い。 ・ そのため、多子世帯だけではなく、孤立世帯、母子世帯、父子世帯、近くに頼れる親族がいない世帯を考えてほしい。 ・ P3 乳幼児の教育・保育の質の向上について、ショートステイにおいては、質の向上というよりも量の確保ではないか。 ・ P3 療育の支援充実について、「すべての子どもが同じように育つことができる教育・保育の環境づくりなど、～」とあるが、全ての子どもが同じようには育たない。「同じように育つ」ではなく、「幸せに育つ」「将来楽しみを持って育つ」など文言を修正した方がよいのではないか。 ・ P5 個別支援や配慮が必要な子どもへの対応について、「ソーシャルワークの視点をもって支援に取り組む」という文言は、意味が伝わらない。
西村会長	・ 文言修正できるものについては文言修正する。 ・ 療育のワンストップの問題については、事務局も含めて、検討する。
事務局	・ 答申案は、これまでの部会の中であげられたご意見をまとめている。 ・ 文言については、意見を踏まえて修正したい。
西島副会長	・ 療育については、障害者福祉課の職員が子育て支援課の窓口で対応するなどできないか。
事務局	・ 去年の会議の答申でもいただいており、庁内で外部の方も入った検討を進めている。来年度策定する計画でもしっかりと反映していきたい。
事務局	・ 療育の支援の充実という表現は、この内容で包含されている。 ・ 保健所、子育て支援センター、教育相談など、様々な相談機関が入ること

	から、その支援をうまく繋げるのが大事だと考えている。相談に来た人をすぐに障害者福祉課につなげるのではなく、発達に悩んでいる保護者の支援についても検討している。
西村会長	・療育の会議は、子育て支援センターや保健所、子育て支援課、子ども施設課など、みんなで一緒になって考えていこうということで取り組んでいる。 ・基本的な考え方は、子育て支援の立場やお子さんそのものの困り感などの視点で、行政として何が支援できるのかということを検討している。 ・こういった取組は、皆様の声を受けて動き出した事例の1つだと思う。
西島副会長	・小学校に入るまでは厚労省が管轄で、学校に入ると文科省の管轄でやっている、いつまでたっても解決につながらない。 ・療育の子どもが普通の学校に入れるのが本当の目的であるが、現状だと療育になるとずっとその道になってしまっている。特別支援学級から、大きくなったら普通学級に入れるような道があるとよい。 ・例えば、ADHDの子どもは小さいうちは暴れても、大きくなると落ち着いてきたり、周りの子どもを理解できるようになる。 ・学校の先生にも、そのような子どもたちが学校に入る前にどのように育ってきたか、どうしていったら良いかを一緒に考えてもらえるとよい。
委員	・P2 I “こどもまんなか”すみだに向けて（次期計画の共通理念として）について、「共通理念」の共通は、誰と誰の共通なのか。
事務局	・本会議の全体としての共通ということである。
委員	・P4 小1の壁、保育の質の向上について、保育の質の向上とあるが、就学に関わる小1の壁の解消とどう結びつくのかわからないので、教えていただきたい。
西村会長	・今までは、保育園は保育園、学校は学校、それぞれで取り組んでいたことを、なんとか切れ目なくやっていこうということで進められている。 ・例えば、協同的な学び事業というものがあり、小中一貫教育事業というものなどの取組がある。 ・スムーズに就学できるよう保育の質も上げていかなければいけないということで、質の向上の中に、就学に関わる小1の壁の解消を合わせて記載している。
西村会長	・みなさまからいただいたご意見は、文言修正や一部文言を検討するということで、事務局に一任させていただき、全体像としては、この答申書で行かせていただくということによろしいか。（一同了承） ・基本的にはこの内容で進め、最終版ができたら、次回会議でご報告させていただく。 ・来年は答申をベースにしながら計画について、引き続きのご議論になるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 令和6年度の区の主な取組について

事務局	(資料について基づいて説明)
西島副会長	・子どもの意見聴取の仕組みについて、虐待で亡くなったお子さんの記事を読んでいて、学校になんとかしてくれませんかと言っても、誰も相手にしてくれなかったことがある。 ・周りの大人が本当に子どもの意見を聞こうと思っているかということが1番大事である。 ・子どもの声を聞くということは、どういうことなのかをみんなで考えて、それを広めることも大事ではないかと思う。
西村会長	・子どもの声とは、色々な声があります。 ・例えば、計画を作るにあたって、議論を形成していくための子どもたちの声を聞くことや、本当に1人の子どもの切実な声を聞くということも大事である。 ・その辺も含めて、施策に反映をしていただきたい。 ・また、資料3の図のように、法律の背景があってそれぞれ違うものである。 ・最初は次世代育成支援だったものが、子ども・子育て支援の計画になって、就学期の子どもには子ども若者計画というものができ、今回はそれらをこども計画として全体を包含する計画を立てていこうということである。 ・こども計画の策定により、切れ目ない支援の一助になるのではないかと思う。 ・まずはこういった事業を取り組んでいくということで、ご承知おきいただきたい。

(3) 八広児童館の愛称名について

事務局	(資料について基づいて説明)
各委員	(投票用紙にそれぞれ無記名で候補のうち1つを記入し提出)
事務局	(結果発表) ・八広児童館の愛称名については、「ぽかぽか」と決定した。 ・投票結果は、「ぽかぽか」が13票、「きねっこ」が7票、「やっぴー☆」が2票、棄権が1票となっている。
西村会長	・広く馴染んでいただけるように周知をしていただければと思う。

3 事務連絡

4 閉会

以上